

TABLE FOR TWO かわら版 補足資料
～Vol.9 エチオピア視察報告～

ご担当者の皆様

日頃から TFT プログラム実施のため多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。本資料は、かわら版だけでは伝えきれない支援先の情報を皆様にご覧いただくための補足資料です。貴組織内でのコミュニケーションや PR 等のご参考にして頂ければ幸いです。今後とも引き続きのご支援、何卒よろしくお願いいたします。

【補足資料 Vol.9 をお送りするにあたって】

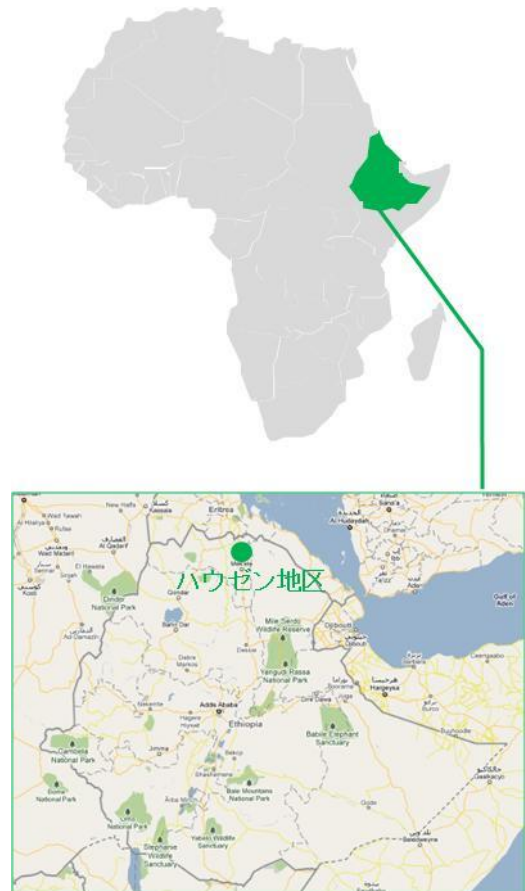
本年 3 月、2010 年 9 月から支援を行っているエチオピアにて、視察を行って参りました。給食が中断されていた期間の支援地域では、子どもたちがその日満足な食事を取れるか否かは、とても不安定な状況でした。TFT が学校給食を届けるようになって以降、未だ十分とは言えませんが、日々の食事が一定量確保できるようになり始めています。今回の補足資料では、皆様からのご支援による学校給食プログラムの舞台となっているエチオピアの小学校の制度、また子どもたちが食べている給食についてお伝えさせていただきます。

1. エチオピア支援地域 ティグライ州ハウゼン地区コロロ

エチオピア北部ティグライ州ハウゼン地区に位置するコロロにて、TABLE FOR TWO (以下 TFT) は学校給食プログラムを支援しています。(2010 年 9 月支援開始)

この地域は、半乾燥地帯であり、一年のうち 6 月終わりから 9 月初めの間にのみ雨季があります。近年では、気候変動の影響により深刻な干ばつが起こることが多くなり、この地域の主要産業である農業生産量に大きな被害をもたらしています。多くの家庭が農業に従事しているため、農業生産量の変動は、子どもたちの生活へ直接的に影響をもたらします。また、各世帯は点在しており、家と家や町と町をつなぐ交通網も、未整備の箇所が多く残っています。そのため、子どもたちが日々学校へ通うことや、農作物を町のマーケットへ売りに行くことが、大変困難な状況となっています。

このような厳しい環境にあるコロロの、22 の小学校のおよそ 13,000 人の子どもたちへ向けて TFT は学校給食を届けています。



2. エチオピアにおける小学校制度

エチオピアでは、政府の政策により 1994 年に教育改革が実施されました。その結果、初等教育を 7~14 歳までの 8 年間とし、この期間は無償で授業を受けられることとなりました。以後、小学校就学率は順調に上昇し始め、2007 年にはサハラ以南アフリカ平均値を抜き、2008 年には 82% を記録するに至っています。



▶ 各家庭の負担

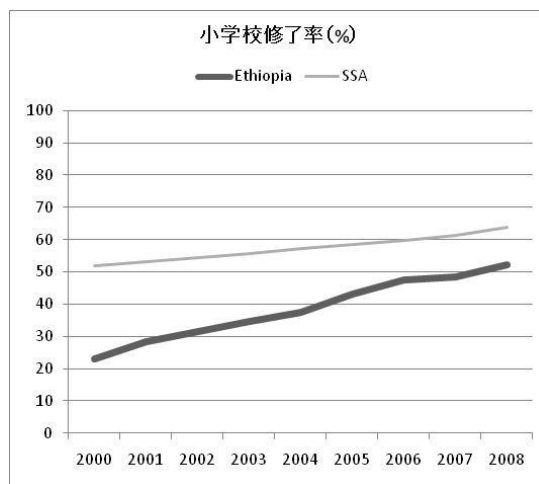
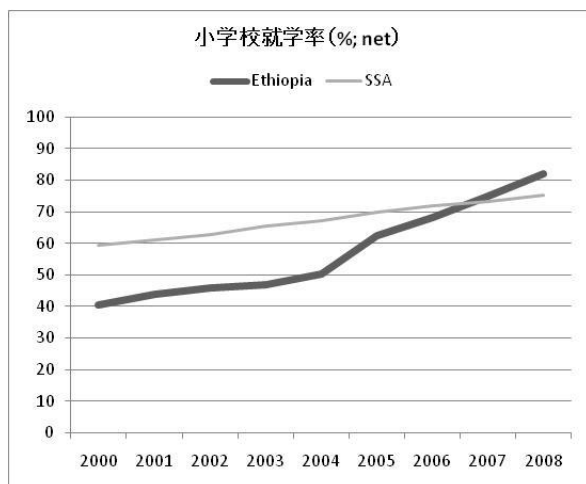
教科書費や教師給与など学校運営に関する費用は、地方政府によって賄われています。家庭による負担としては、義務化されている学校登録費を年額 15~20 Birr (エチオピアブル、US\$1 程) 支払うことが必要とされています。この登録費を支払うことができない家庭についても、地方政府へ申請することで免除が可能となります。

▶ ダブルシフト制

他の TFT 支援国と同様、生徒数の増加に対して教師の増員・学校の増築が追いついていないため、午前・午後で生徒が交代をするダブルシフト制が採用されています。

▶ 言語

正式に植民地化された歴史のないエチオピアでは、基本的に現地言語で授業が行われています。(エチオピアには、アムハラ語という公用語があり、同時に各民族によって異なる民族語をも存在します。) 小学校では、英語の授業はあるものの、全ての授業がその土地の民族言語で行われており、他のサハラ以南アフリカ諸国と比較すると英語を話す人の割合は低くなっています。



一方、小学校修了率についてみると、過去 10 年間で上昇は見られるものの、2008 年時においても未だ 52% に留まっています。この値は、サハラ以南アフリカ平均 64% と比較しても、まだ低い状態にあると言えます。低い修了率の原因として、主に 2 つの理由が挙げられます。一つは、小学校最終学年に到達しているものの、

卒業試験に合格できず留年してしまうケースです。エチオピアでは、小学校最終学年 8 年生時に国が実施する卒業試験を受け、それを通過できた児童だけが小学校を卒業し、セカンダリースクールへ進学できる制度となっています。しかし、家業の農業を手伝うためにしばしば学校を欠席しなければならなかったり、日頃満足な食事をとることができないために授業に集中できなかつたりと、学業に専念できる環境が十分ではないため、留年する生徒が多くなってしまっている現状があります。

修了率の低いもう一つの原因として、中退率の高さが挙げられます。家業の手伝いを親から強要される、家計が逼迫し学費が工面できなくなるなど、様々な要因が子どもたちの学業の妨げとなっています。特に女子児童に注目すると、エチオピアでは早期結婚・妊娠が未だ社会問題となっており、女子児童に対する継続的な教育機会の提供が、教育セクターにおける重要な課題の一つとなっています。

3. TABLE FOR TWO が届ける学校給食

2010 年 9 月から、TFT ではティグライ州ハウゼン地区の 22 の小学校に学校給食を届けています。子どもたちが日々食べている給食は、CSB (Corn Soya Blend: トウモロコシ大豆ミックス) と呼ばれる穀物のミックス粉から作られています。エチオピア国内で生産・加工されたトウモロコシと大豆を主原料とする CSB を、沸騰したお湯の中で、ビタミンが添加されたオイルと混ぜ合わせて作ったものが給食です。この CSB は 1 食 400kcl 程とエネルギー量が少なく、かつ野菜スープのような豊富な栄養価を含む副菜は提供されていません。勉強に集中するための最低限のエネルギーは確保できるようになったものの、まだ子どもたちが健やかに成長していくために必要な栄養を十分に摂取出来る段階までは至っていません。

今後 TFT では、子どもたちの健康状態をより改善し、勉強へ集中できる環境づくりへ貢献できるように、そして同時に出来る限り持続可能性の高い学校給食プログラムの仕組みが構築できるよう、さらなる支援の強化を行って参ります。



給食室の様子



給食の配膳に並ぶ子どもたち



子どもたちが食べる CSB

4. TABLE FOR TWO 代表の所感

TFTとして最初にコロロを訪問したのは、昨年の2月でした。深刻化する干ばつの影響で農産物の生産量が著しく低下し、外部からの支援も打ち切りとなったため、学校給食がストップしている状況でした。子どもたちは、日が昇る前に起き、家族が営む農作業や家畜の世話を手伝った上、さらに朝食も食わず空腹を抱えたまま1時間近くの遠路を歩き、学校に通っていました。教室にいらした担任の先生に伺ったところ、あまりもの空腹と通学の疲労で授業中に突っ伏してしまう子どももいたそうで



す。当然、学校にはいるものの授業には集中できず、お遊戯の時間もただ地面に座り時を過ごす子どもが多かったようで、先生も事態に胸を痛めているとのことでした。TFTの支援により、なんとか学校給食を再開し、子どもたちの教育環境を改善せねばと痛感した瞬間でした。その後1年の時が経ち、コロロが置かれる過酷な状況をご理解くださり、支援を申し出てくださいました企業、団体の皆様のおかげで、ようやく学校給食を子どもたちに届けることができました。今はまだ、栄養的にも質的にも十分とは言えない食事ですが、子どもたちは目を輝かせながら、楽しそうに食事をしていました。今後は、地元の農家の方々に協力していただき、畑で栽培されている果物や野菜などを給食のメニューに加えていくつもりです。いつの日か先進国の子どもたちと同じように、コロロの子どもたちが必要な栄養をきちっと摂取できる環境作りに、TFTとして取り組むべきことに今後も注力していく予定です。

TABLE FOR TWO かわら版 補足資料
～日本での実施状況～

参加組織

⇒ 計 433 の組織で実施中 (2011 年 7 月 1 日現在)

内 訳	団体数	割 合
1. 企業	205	47%
2. 学校	79	18%
3. 店舗、小売食品	80	18%
4. 官公庁、公的機関	26	6%
5. 病院	11	3%
6. その他	32	7%
計	433	

これまでの寄付総額 ※TFT 事務局に入金された寄付金額ベースで給食数を換算

- 2007 年度の寄付総額
56,737 食分(約 260 人の子どもの 1 年分の学校給食)
- 2008 年度の寄付総額
597,652 食分(約 2,720 人の子どもの 1 年分の学校給食)
- 2009 年度の寄付総額
2,122,627 食分(約 9,650 人の子どもの 1 年分の学校給食)
- 2010 年度の寄付総額
3,815,507 食分(約 17,340 人の子どもの 1 年分の学校給食)
- 2011 年度これまで(1~6 月)の寄付総額
2,632,062 食分(約 11,960 人の子どもの一年分の学校給食)

⇒合計 9,224,585 食分(約 42,930 人の子ども 1 年分の学校給食)